

日本の消費者は水産資源の持続可能性のためにお金を支払うか？

|       |                                                                                                                    |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 水産総合研究センター<br>公開日: 2024-06-04<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 若松, 宏樹<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006547">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006547</a>                |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



# 日本の消費者は水産資源の持続可能性のために お金を支払うか？



【研究課題名】

「水産資源の持続的な利用のための開発研究」

「我が国水産業の特性に立脚した消費者への資源持続性等の情報サービス」

【実施年度】 平成28～32年度

経営経済研究センター 水産振興グループ 若松宏樹

## ● 目 的

日本人は健康に関しては高い関心をもっていますが、環境に関しては欧米に比べて意識が低いと言われています（国立環境研究所1999）。魚介類に関しても品質や鮮度がよい有名ブランドは高価格で取引されますが、環境に配慮した魚介類や、持続可能な漁業でとれた魚介類の話は聞いたことがないのではないのでしょうか。現在、世界中で持続可能なエコラベルを付けた魚が売られていて、ヨーロッパなどでは高価なものになってきています。また、資源が維持できなければ結局は漁業も衰退してしまい、私たちの食卓に上る魚が減ってしまいます。日本人は魚介類を末永く食べるため、どの程度お金を払ってもいいと考えているのでしょうか？

## ● 方 法

日本全国の消費者にWEBアンケート調査を行い、魚介類の資源状態、海的环境・生態系、漁業管理、そして漁業地域・経営の存続などに関してどの程度お金を支払ってもよいか、選択実験とコンジョイント分析という手法を使って分析を行いました。

## ● 結果・波及効果

その結果、消費者は環境・生態系については高い関心を示しましたが、資源状態、漁業管理や漁業経営などについては関心が低いという結果になりました。また、環境・生態系についても、関心は高いものの、そのためにお金を支払う意思は弱いということがわかりました。魚食国の日本では、水産物の価格は日々の食費に直結するだけに価格上昇には消極的にならざるを得ないのかもしれません。

しかし、我々水産研究者は、国民の皆さんに将来も魚を食べてもらえるように持続可能性の重要性を広めていかなければならないと考えています。当機構では日本でとれる魚介類の持続性を評価するプロジェクト「SH“U”N」を展開しています（<http://www.sh-u-n.fra.go.jp/>）。アプリもあり、魚の持続性が分かるようになっていきます。ぜひ一度ご覧になって魚の持続性について理解を深めてはいかがでしょうか。

## ● 文 献

国立環境研究所（1999）地球環境問題をめぐる消費者の意識と行動が企業戦略に及ぼす影響。国立環境研究所

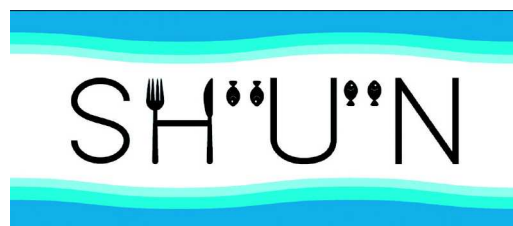


図1 SHUN ロゴ



図2 SHUNのバーコード